

瀬戸内国際芸術祭 2019「大切な貨物」記者発表会&レセプションのご案内

瀬戸内国際芸術祭2019 参加作品

大切な貨物

オランダ人アーティスト、クリスティアン・バステアンス作・演出による
映像インスタレーション&ライブ・パフォーマンス作品

この作品に出演する世界的女優リヴ・ウルマンの来日を記念して

記者発表を行います。

2019年4月12日(金)15:30～



この度、第4回となる瀬戸内国際芸術祭 2019において、ハンセン病療養所のある「大島」をテーマとした日欧共同プロジェクト「大切な貨物（原題：Valuable Cargo）」を実施いたします。この作品に出演する世界的女優リヴ・ウルマンの来日を記念し、制作と演出を手がけるアーティスト、クリスティアン・バステアンス、瀬戸内国際芸術祭総合ディレクターの北川フラム出席のもと、本プロジェクトの記者発表及びレセプションをオランダ王国大使館にて開催いたします。

リヴ・ウルマンは東京生まれのノルウェー人女優。「20世紀最大の巨匠」と称される映画監督イングマール・ベルイマンのミューズとして知られ、受賞多数、舞台演出家、監督、作家としても幅広く活躍しています。また、女性初のユニセフ親善大使をつとめ、自ら女性難民委員会を立ち上げる等、人権問題に深く関わり、本プロジェクトへの参加を快諾、自ら大島での撮影を望み、来日することとなりました。

つきましては、本記者発表にご参加いただきたく、ご案内申し上げます。記者発表会終了後はレセプションを予定しておりますので、出演者と交流していただければ幸いです。

【記者発表会&レセプション概要】

日時 2019年4月12日(金)

15:00 開場

15:30 記者発表

17:00 レセプション

18:00 終了

会場 オランダ王国大使館大使公邸

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-6-3

出演 リヴ・ウルマン (女優 女性難民委員会創設者)

クリスティアン・バステアンス (アーティスト)

北川フラム (瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター)

主催 瀬戸内国際芸術祭実行委員会、オランダ大使館

お申込・問合せ先 アートフロントギャラリー (鶴谷、前田礼、宮原) TEL:03-3476-4868

お名前・ご所属・人数をメール (artfront@artfront.co.jp) でお申込みください。

「大切な貨物」について

「大切な貨物」は、オランダ人アーティスト、クリスティアン・バスティアンスがヨーロッパ・日本のキャスト・スタッフと共に創り上げる映像・インスタレーションとライブ・パフォーマンスからなるプロジェクトです。様々なメディアによって「人間の条件」について問い続けてきたバスティアンスによって「傷ついた共同体の物語」が紡ぎ出され、人間の尊厳と価値を静かに問いかけます。リヴ・ウルマンをはじめ、ヨーロッパの第一線で活躍する俳優たちが参画。日本からはピーター・ブルックをはじめ名だたる演出家の作品に出演する笈田ヨシ、今もなお世界の観客を感動させ続ける舞踏家の大野慶人、数々の新人賞を受賞し、成長著しい女優・石橋静河が出演します。



昨年末の東京での撮影風景

瀬戸内国際芸術祭と大島について

大島にある「国立療養所大島青松園」は、全国に13あるハンセン病回復者の療養所のうち唯一の離島です。瀬戸内国際芸術祭では、2010年の第1回より大島を会場のひとつとしてきました。アートを媒介として、隔離され差別されてきた人々の記憶を遺すとともに、そこに生きた人々の尊厳を深く見つめ直し、支援する人々のネットワークをつくりながら、大島を「希望の場所」とするための作業を行っています。その成果もあり、2019年4月、芸術祭のスタートにあわせ、一般向けの旅客船定期航路が開通します。

出演者プロフィール

◆リヴ・ウルマン



1938年東京に生まれる。「アンネの日記」で主演としてノルウェーで初舞台を踏む。その後ブロードウェイ、オーストラリア等の劇場で大役を演じる。イングマル・ベルイマンの監督作品に初の海外女優として出演し、国際的な評価を受ける。ゴールデングローブ賞、2度のアカデミー主演女優賞ノミネートをはじめ、受賞多数。舞台演出家としても活躍。作家としても知られ、『チェンジング:リヴ・ウルマン自伝』(1976年)はベストセラーとなり、『Choices』(1984年)はフランス文化勲章受章。1977年に聖オラフ勲章受章。ベルイマンが脚本を担当した『不実の愛、かくも燃え』(2000年)等を監督。2001年のカンヌ国際映画祭審査委員長。女性初のユニセフ親善大使として10年以上活動。映画や舞台での活躍以上に、世界の恵まれない人々を支え、人権を与える活動に势力的に参加。国際救済委員会(世界で最も大きい難民のための民間機関、通称IRC)で35年以上副会長を務める。世界中の難民女性問題に携わる機関、女性難民委員会(通称WRC)を20年前に設立。これらの活動を自らの人生で最も重要なものと考えている。

◆クリスティアン・バスティアンス



オランダ、アムステルダムに生まれる。そのアートプロジェクトは、複雑で重層的なインスタレーションによって社会構造を深く掘り下げる。主要なテーマは人間の身体。戦争や強制移住、グローバル市場といったテーマにつながるイメージにあらわれる植民地の身体、切り裂かれた身体、傷、国家の軍事力、商品としての身体を私たちにつきつける。2003年大地の芸術祭では「真実のリア王」を演出。近年はジャンヌ・モローやハンナ・シグラ、アンヘラ・モリーナ等の名女優を起用した実験的映像作品を制作。

◆北川フラム



1946年新潟県高田市(現上越市)生まれ。アートフロントギャラリー主宰。主なプロデュースとして、「アントニオ・ガウディ展」「アパルトヘイト否！国際美術展」等。地域づくりの実践として「ファーレ立川アート計画」「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」「瀬戸内国際芸術祭」「北アルプス国際芸術祭」「奥能登国際芸術祭」総合ディレクター。